



全国曹洞宗青年会の 活動紹介(五十二)

峨山道巡行 参加報告

副会長

高柳 たかやなぎ

龍哉 りゅうさい

「第五九回峨山道巡行（紅葉の風香る、峨山越ゆるとき）」が禅の里づくり推進協議会主催により十月一四日から一五日の二日間で開催されました。

「峨山道」は大本山總持寺二祖峨山禪師が、輪島市の總持寺祖院と羽咋市永光寺えいこうじの住職を兼ねていた二〇余年間、往来した両寺院を結ぶ約五二キロの山道で、峨山禪師が毎朝未明に永光寺の朝課を勤めた後、總持寺祖院まで歩いたといわれる古道となります。この道の石造遺物などを巡りながら歩く行事に参加しました。

初日は瑩山禪師が御開山として



知られる永光寺で出発式を執り行いました。東京や神奈川、愛知など全国からの参加者が一堂に集まり、巡行中の注意事項や決まりごとを

確認した後、山門の大きな仁王像に見守られながら出発しました。

永光寺法堂西の回廊を進むと「蛇胎石」と呼ばれる大石があります。蛇の体をした妖霊が、瑩山禪師のお導きによって寺を守護する大石に化したものだと言われています。道中の安全を祈願しながら進むとすぐに山道に入り、山あり谷ありの道を進むこととなります。

五〇回を超える参加をしているベテランと初参加の巡行者との経験の差や、年齢も九一歳の年長者から一七歳の高校生までと開きがあり、それぞれのペースを尊重しながら一二キロほどを歩きました。



昼食時には門前町郷土史研究会の方より峨山道の解説や逸話の紹介がなされ、より深い理解を得ることができ、峨山道巡行検定などのクイズもあり、参加者同士のコミュニケーションの場となりました。

二日目はあいにくの雨天となり足元はぬかるみ滑りやすい道を歩

くこととなりました。山を二、三超えて辿り着いた峨山山頂では第二〇回峨山道巡行を記念して建立された聖観音菩薩さまがお祀りされており、總持寺祖院門前の有志の方々が思いを込め作成した前掛けの奉納と、諷経を執り行いました。下山していくと名水百選にも選ばれる古和秀水こわしゅうすゐに辿り着き、瑩山えいざん禪師が龍神より賜ったと伝えられる霊水場で昼食となりました。もうひと踏ん張りして首山三三番観音霊場をお参りし總持寺祖院へと到着いたしました。總持寺祖院ではお抹茶で一休みした後、大悲真読にて巡行の円成諷経と伝統芸能門前とどろの披露、巡行談義と進み全行程終了となりました。

二日間で約二四キロ



●執筆者プロフィール

高柳 龍哉

全国曹洞宗青年会副会長
秋田県曹洞宗青年会所属

の今年の巡行は峨山禪師が毎日歩かれた半分の距離になります。晴天の日も雨や雪の日も過酷な山道を歩かれたことを思うと、改めて弁道精進しなければならぬと感じました。また、初参加でもベテラン参加者に快く受け入れていただき最後には安居を共にしたような一体感があり、来年の再会を約束している参加者同士もおりました。「祈りの道・心の道・歴史の道」として地元住民が大切に守り、誇りにしている峨山道とその巡行行事、また来年の開催を楽しみにしております。